7 Projects

【「エコ」活動ファイル2007】

マークの凡例
地域開発
環境教育

中国

シルクロード緑化プロジェクト

砂漠の拡大が進む黄土高原の荒廃地で、地域の人たちと植林を続けています。

植林準備の一風景

植樹式の参加者たち

乾燥地域が広がる中国シルクロード上の黄土高原では、沙漠化により新たな土地が侵食されています。地域の人たちによると、以前は陝西省西安市付近から新疆ウィグル自治区まで緑が広がっていましたが、燃料材の伐採や過放牧など土地の酷使が荒廃地域の拡大につながったと言われています。私たちは、プロジェクトパートナーのNPO2050とともに、陝西省で乾燥と寒暖の差に強い沙棘(サジー)による植林活動を開始し、現在、甘粛省で植林を継続しています。

地域の子どもたちと植樹している様子

2007年度の活動

甘粛省において、2007年10月に植林ツアーを実施し、14名の会員が現地農民と共に120,000本の植林を行いました。現地の諸事情により、2006年度から繰越された30ha分につきましては、2007年11月～2008年4月にかけて90,000本の植林を完了致しました。また、現地の「中国人口福利基金会」の協力のもと、植林地域を視察し、苗木の現状や沙棘(サジー)の収穫、環境問題について協議しました。これらの課題は、2008年度に対応する予定です。

今後の活動

黄土高原で沙棘(サジー)の植林とモニタリングを実施します。2008年度は農家の人たちが中心となり、35haに105,000本の沙棘の苗木を植林します。植樹手法やデータ管理などモニタリングも継続し、植林地域の評価と、これらから見えてくる課題の解決に努めます。

中国

秦嶺(しんれい)山脈 森林・生態系回復プロジェクト

森を分断する林道跡地に植林し、絶滅危惧種の生息環境改善に取り組んでいます。

生態観測結果を発表するプロジェクトパートナー

木々を飛び移るキンシコウ

秦嶺山脈は、パンダやキンシコウ(絶滅危惧種)などの希少動物の宝庫として世界的にも有名です。しかし、20世紀後半の薪炭材の伐採により、野生動物の生息する森は荒廃し、種の絶滅が危ぶまれるようになってしまいました。このプロジェクトでは、豊かな森林と生態系の回復をめざし、環境を最も脅かしているとされる林道跡地への植林(全長194kmのうち72.5km)と、動植物の観測に取り組んでいます。

秦嶺山脈で植樹している学生たちや地域の人たち

2007年度の活動

秦嶺山脈の廃棄道路16kmに約310名が従事し12,000本の樹木を植樹しました。最近の調査によると、植林した道路に、小動物のほかにも頻繁に野生の豚やキンシコウが移動しており、マスメディアでも報道されています。フィールドワークを通じたキンシコウの生態観測や、ケンブリッジ大学など中国国内外の大学での論文発表も続けています。

今後の活動

秦嶺山脈の植林活動は、希少動物の生息地域の生態系回復が、希少動物の活発な活動につながります。今でも同山脈の北側に廃棄道路(林道跡地)が放置されており、2008年度には14kmの林道跡地に合計11,000本植林予定です。野生動物の適応状況など生態観測も継続します。

フィリピン

循環型農業支援プロジェクト

地域の循環型農業の構築に向け、キャッサバ植栽やエリ蚕養蚕を実施しています。

地機(じばた)織り

整経機を練習するトレーナー

フィリピン南西部のパラワン島は緑豊かな島であるとともに、同国の中でも最も開発の遅れた地域といわれています。その地域の農民や漁民の人たちの多くは、森林伐採や焼畑農業に従事し、生活を営んでいます。私たちは、プロジェクトパートナーのNPO2050とともに、パラワン島の首府プエルトプリンセサで、タグバライ財団の協力を得て、現地女性によるキャッサバ栽培やエリ蚕飼育を通じ、環境保全活動を展開しています。

トレーナー向けの技術指導の様子

2007年度の活動

2007年度はエリシルク技術指導者養成とトレーナーによる研修を実施しました。エリ蚕飼育・糸紡ぎ・編み物・織物などのトレーナー向け技術指導をプエルトプリンセサで計3回開催し、その他ポートバートンにおいても同様な指導をしました。また、島内3ヶ所にトレーナーを派遣し、地域の人たちにエリ蚕飼育の技術指導をしました。

今後の活動

2008年度も、同国パラワン島で、糸紡ぎ・編み物・織物などの「トレーナー向け技術指導」を実践し、その技術指導を受けたトレーナーが要請に応じて各地で技術指導を行います。また、マイクロクレジットも継続して運営します。

南太平洋諸国

南太平洋諸国支援プロジェクト

降水量の変化や海水面の上昇などの環境被害を受けている地域を支援しています。

海岸浸食防止のための石積み

南太平洋のキリバス諸島やツバルは、気候変動の影響を真っ先に受けているといわれる島しょ国です。平均海抜が数mしかない両国では、潮位が上昇すると住宅に浸水したり井戸に海水が流入したりするなど、脅威は地域社会の人たちに否応なく差し迫っています。その結果、自給自足の循環型社会であった地域の食料自給率が低下し、海外からの輸入品が氾濫し、ゴミが島内に散乱するようになっています。気候変動が地域社会の人たちの生活に影響を及ぼしています。

キリバス共和国

2007年度の活動

2007年度はキリバス共和国のアナナウ地区とナニカイ地区に、4,243本のマングローブを植樹しました。マングローブの保全や再生も継続しています。2005～2007年度の3年間で28,528本を植樹。(残存率約40%)残存率は2005年9月から2007年9月にかけて、約54%から84%となり、過去の経験が確実に活かされてきています。持続的な活動になるようにと、政府関係者へ自主的な植樹を働きかけ、効果も出始めています。

植樹から約3年間経過したマングローブ

今後の活動

2008年度はマングローブ植樹を通じ、地域住民に対して植樹活動に必要とされる適正な技術移転を行います。また、環境啓蒙映像を利用したワークショップを開催し、キリバス国内だけにとどまらず南太平洋全体の現状をわかりやすく伝え、環境意識と域間連携の醸成に努めます。

ツバル

2007年度の活動

フナフチ環礁のフナファーラ地区に、約1,640本のマングローブを植樹しました。2007年10月には植樹式を開催し、副首相など政府関係者や小学生20名がマングローブの種子を丁寧に植樹しました。また、雨水タンクの補修事業にも着手。地元の工事会社と契約し、工事管理を行い、2007年6～9月に76基のタンクを補修しました。

副首相との植樹

給水車

タンク補修

今後の活動

2008年度は、環境被害を深刻に受けるツバルのフナファーラ地区に、2,000本を目標にマングローブを植樹します。さらに、廃棄物の啓発事業を展開し、専門家を招聘したワークショップを開催します。廃棄物の環境被害を地域の人たちに伝え、それら被害の拡散防止に努めます。

植樹する中学生

フナファーラ地区で植樹式を開催

日本

種まき塾

"ココロと大地にタネを蒔く"をスローガンに、自然林の回復活動を通し、環境教育に取り組んでいます。

物事の始まりであり、「循環」の象徴と言える「タネ」に注目し、自然循環する森林づくりと、環境教育に取り組んでいます。山からタネや実生を採取し、これを苗畑で育て、地域で植林する方々に提供します。苗木育成や植林活動を通した環境教育プログラムも実施しています。

播種体験するエコツアー参加者

実生を採取するエコツアー参加者

苗木づくりまでの過程を熱心に指導する先生

2007年度の活動

アカエゾマツやミズナラなど約5,320本の苗木を富良野自然塾や北海道山村草木会に供給しました。2007年度現在、約36,000本の苗木を育成しており、苗畑の維持管理を徹底しています。また、富良野エコツアーなどの環境教育プログラムに、延べ563名が参加しました。

今後の活動

北海道富良野で持続可能な自然林をめざし、地域の植生にあった森林づくりを実践しています。2008年度は苗木供給5,000本を目標とし、苗場の維持管理を行います。体験学習も実施し、参加者の環境意識に訴求していきます。

日本

学校の環境教育支援プロジェクト

日本各地のNPOとともに、教育の現場、「学校」での環境教育を支援しています。

小川で自然体験する子どもたち

教育最前線である「学校」の環境教育をお手伝いすること、それがこのプロジェクトの目的です。自然体験プログラムなどのノウハウを持つ日本各地のNPOと、ノウハウや機会を探している学校とのマッチングを行い、互いの長所を生かした環境教育プログラムに取り組んでいます。また、環境教育サイト「EE kids」を活用し、環境教育のプラットフォームづくりも行っています。

2007年度の活動

自主的・自立的な環境教育の展開をめざし、全国9校に環境教育プログラムを支援しました。環境教育サイト「EE kids」は、普段授業を見られない保護者の方々からも喜ばれています。

授業での発表会

今後の活動

2008年度は13ヶ所の小中学校(北海道1校、岩手県1校、宮城県3校、埼玉県1校、東京都3校、三重県2校、鹿児島県1校、沖縄県1校)の環境教育プログラムを支援します。

バードウォッチングしている子どもたち

■ 2007年度支援校

地区	小学校	支援団体	テーマ	期間	回数
北海道	札幌市立手稲宮丘小学校	NPO法人 ねおす	都会である札幌の自然について知る	4~8月	6回
宮城県	栗原市立鶯沢小学校	くりこま高原自然学校	地域の自然と歴史の関わりについて知る	5~3月	9回
埼玉県	越谷市立大袋東小学校	自然教育研究センター	ビオトープの生き物調査	4~11月	9回
東京都	東京大学教育学部附属中等教育学校	木風舎	森林の働きを知り、地球温暖化を考え、実践につなげる	4~2月	20回
岐阜県	高山市立清見中学校	森林たくみ塾	木を使ったものづくりから森の機能と地元の文化について考える	6~10月	8回
広島県	東広島市立木谷小学校	人間科学研究所	地域の海の豊かさと歴史について知る	6~9月	3回
高知県	仁淀川町立名野川小学校	黒潮実感センター	山と海のつながり	6~7月	2回
熊本県	菊池郡大津町立大津小学校	コミネット協会	水から環境を考える	6~3月	3回
鹿児島県	蒲生町立西浦小学校	NPO法人くすの木自然館	河川環境教育	5~11月	5回

04年度:5校、05年度:6校、06年度:10校

日本

「エコ」活動参加型環境教育プロジェクト 野口健 環境学校

環境に対し自ら行動できる『環境メッセンジャー』の育成を支援しています。

伝言ゲームを楽しむ野口健さんと環境学校の参加者

「自分から環境に対して行動しメッセージを発信できる人"環境メッセンジャー"を育てていきたい」。そんな思いから野口健さん率いるNPOとともに「環境学校」を開催しています。環境学校では自然の美しさや楽しさを体験し、環境保全のありかたや、背景にある社会問題も学びます。

富士山でごみ拾い後の集合写真

2007年度の活動

富士山と佐渡島で環境学校を計3回、東京でメッセンジャーミーティングを1回開催しました。環境問題の最前線での体験プログラムを通じ、自分から環境に対し行動し発信できる人「環境メッセンジャー」を育成しています。2007年度は、約100名の参加者が環境学校や東京に集まりました。

開催地	日程	参加者数	メインテーマ
佐渡	7月22日～7月25日	24名	トキ放鳥の佐渡の取り組みについて
富士山	8月11日～8月14日	28名	富士山の不法投棄の現状について
富士山(家族対象)	9月15日～17日	21名	富士山の不法投棄の現状について。家族が富士山でできること、家庭でできること
東京	12月15日～16日	31名	企業の環境活動(エコプロダクツ展等)。環境メッセンジャーの輪

今後の活動

「環境メッセンジャー」を全国に育成します。2008年度は、富士山(3回)、佐渡、東京の3ヶ所で合計5回の環境学校を開催します。参加者からも費用の一部を頂き、自立的な活動をめざします。

日本

さとやま学校

日本の美しい景観の残る棚田で、荒廃しつつある棚田の再生・保全と環境学習の提供を行っています。

日本の環境問題についての出張授業

日本国内では人口減少や高齢化に伴い、里山の環境が荒廃しつつあります。その影響を受ける長野県飯綱町で、棚田や里山の再生・保全と、次世代を担う子どもたちへの教育提供を実践しています。

地域の環境問題を講義する地域の人たち

インストラクターとプロジェクトパートナー

2007年度の活動

耕作放棄地30a(雑穀・そば栽培)や棚田20a(紫米)を活用し、環境保全を実践しました。実践を通じて環境を伝えられる環境教育リーダーの育成をめざし、44名を受け入れました。また、関東圏の小中学生計791名を対象に、農業・食・環境を考える出張授業を提供してきました。

今後の活動

引き続き、里山の再生・保全の活動と、小中学生への環境・食農教育の提供を行います。双方が持続的に成り立つ仕組み作りとして、里山保全活動内で生産した農産物の都市部での販売を開始し、環境学習の定型教材化を目指します。

パプアニューギニア

熱帯雨林保全プロジェクト

熱帯雨林の保全をめざし、焼畑農業から定地での循環型有機農業への移行を支援しています。

圃地を整備するパーマカルチャーセンターの学生たち

パプアニューギニアやソロモン諸島は、南太平洋の中でも日本と関わりの深い島しょ国です。自然環境の豊かな地域ですが、人口急増や急速な近代化に伴い、食糧生産の増加や現金収入の必要性が高まっています。そのため、商業伐採や焼畑農業の拡大により、自然の再生スピードを超える熱帯雨林の消失が進んでいます。熱帯雨林の保全と、貧困に起因する諸問題の根本的な原因解消を目的とし、焼畑農業から定地での循環型有機農業への移行を支援しています。

水稲栽培を実践する研修施設「エコテックセンター」の学生たち

2007年度の活動

主にモデル研修農場の充実化と定地型有機農業の普及に取り組みました。研修農場では、施設内のカカオを利用したチョコレート製造、有機農業等の専門書購入(現在300冊の蔵書)、農業指導者20名の国家登録などを通じ、将来的な自立運営の実現に向け着実に歩んでいます。ココボ自然環境公園は、土地の確保が遅れ、2008年度に開設予定となりました。

今後の活動

循環型有機農業の普及を実践します。自立運営をめざしたモデル研修農場の参考図書充実化や技術者育成、有機農業普及のための刊務所の農業指導や水田肥沃化などを展開します。2008年度もココボ自然環境公園開所に向け、井戸掘りや人工水路の設置などを準備します。

ソロモン諸島

2007年度の活動

循環型有機農業の人材育成施設「パーマカルチャーセンター(PCC)」では2007年度30名の研修生が卒業し、PCCインストラクター1名が日本での研修を修了しました。また小規模産業育成施設「ソロモンオーガニックセンター(SOC)」ではドライフルーツなどの商品開発や、PCC卒業生や地域住民から買い上げた蜂蜜の日本販売も開始しました。

パーマカルチャーセンターの卒業生一同

今後の活動

引き続きPCCとSOCの機能充実を図りつつ、プロジェクトの全国的な広がりを目指して精米小屋を中心とした拠点を設置します。また活動をより多くの方々に理解して頂くため、積極的な広報活動を実施します。なお昨年4月に勃発したソロモン震災に対しては、今年度も継続し食料自給体制基盤強化に努めます。

ぽかし(有機肥料)の調合

提供した精米機

中国 China
富良野
札幌
宮城
佐渡
長野県
埼玉
岐阜
東京
富士山
広島
高知
熊本
鹿児島
フィリピン Philippines
パプアニューギニア Papua New Guinea
ソロモン諸島 Solomon Islands
キリバス共和国 Republic of Kiribati
ツバル Tuvalu